

受け継がれる1000通の手紙 「漂流ポスト」管理人が引退

2024年4月9日 毎日新聞

東日本大震災で亡くなった人へ宛てた手紙を預かる「漂流ポスト」の管理人、陸前高田市の赤川勇治さん(74)が「引退」する。2014年から自営のカフェ(現在は閉店)の庭にポストを置き、大切な家族や友人を失った人たちからの手紙を受け付けてきた。これまで届いた手紙は1000通余り。年齢などを理由に、設置から10年を区切りとして引退を決めた。

「家族や友への思いを文字に表すことで、胸に閉じ込められた悲しみが和らぐのなら」と、赤川さんは震災から3年後の14年3月、そんな思いで漂流ポストを始めた。営んでいたカフェ「森の小舎」の庭に古い郵便ポストを据え付け、「行く当てのない手紙が流れ着く場所」という意味を名前に込めた。

ポストには、切々としたメッセージが毎週のように届く。「夢でもいいから逢いにきてくださ

い。そして声を聞かせてください。避難したビルの目の前で夫(当時56歳)が津波にのまれた宮城県南三陸町の女性(67)は、手紙にそうしたためた。娘(当時28歳)夫婦と小学校入学直前だった孫(同6歳)を亡くした仙台市の女性(75)は、便箋4枚の最後を「あなたたちの分まで力強く生きます」と締めくくった。

活動は広く共感を呼び、漂流ポストを題材に映画が製作されたり、震災遺児を支援する「毎日希望奨学金」のチャリティーコンサートが開かれたりしてきた。赤川さんはこれまで届いた手紙を厚いファイルに保管し、毎年秋の彼岸過ぎには、カフェから車で10分ほどにある「慈恩寺」で供養の法要をしてきた。遺族を招き、共に焼香したこともある。

19年秋にカフェを閉店しても、管理人としての活動は続け

てきた。だが、震災から13年の今年3月、はつと気付いた。「僕の母親は生きていないのに、放つたらかしにしているじゃないか」。2年ほど前から認知症の症状が出始めた母親(98)は、岩手県内にある施設に預けたまま。新型コロナウイルス禍もあり、面会することもなかなかできずにいた。「身内を亡くした方には心配りするのに、自分の母親にはできていない。母さん、本当にごめんなさい」。ボランティアのつもりで始めたポストの設置から10年。「これからは毎日、母さんを見舞って、親不孝の穴埋めをしたい」。

これを機にポストは廃止しようと思ったが、手紙を出してきただけの人たちからは存続を求める声が上がった。長男を亡くした宮城県登米市の女性(61)は「手紙を書けなくなったら思いを吐き出す場所がなくなってしまう」と涙した。「命を絶とうかと考えたが、ポストがあったから生きてこられた」と訴える遺族もいた。思い悩む赤川さんに声をかけたのが、慈恩寺の前住職 古山敬光さん(75)だった。

住職の座を退いて隠居したばかりなので、代わりに管理人を引き受けてくれるという。「今まで一人で背負ってくれて、ありがとう。古山さんはそう言ってくれた」。

赤川さんは8日、慈恩寺を訪ね、遺族の思いの詰まった約1000通の手紙を託した。円柱形のポストも境内に移設し、今後も手紙を受け付ける。古山さんは「ずっと赤川さんを気にかけていた。尊いポストを引き継ぎ、遺族の方がいらっしゃれば一緒に話をさせていたきたい」と語った。赤川さんは「母を施設に預けて以来、何もしてあげられない後ろめたさと、手紙を書かれる方への責任で押しつぶされそうになっていた」と声を詰まらせながら感謝した。



赤川勇治さん(左)から漂流ポストを引き継いだ古山敬光さん

喪服はどうして「黒」?

喪服はなぜ「黒色」なのか。日本文化に詳しい、東北福祉大学学長で現役の任職でもある千葉公慈さんに聞いた。

喪服は黒というのが定着したのは明治以降で、1300年以上前の歴史書『日本書紀』にも、喪服は白色だと書かれています。「白は、自分の魂は汚れていないと表現するための色でした。なので、お葬式などの場では、白色の服を着たのです。今でも、亡くなった方が白装束を身に着けるのは、あの世で神仏に会い、裁きを受ける際に潔白であると示すためです」。

どうして黒の喪服を着るようになった? 「奈良時代の貴族は黒の喪服を着ましたが、黒の染料が貴重だったこともあり定着しませんでした。一般の人に黒が広まったのは、欧米化が進んだ明治時代。西洋では黒色の喪服が主流で、明治30年にあつた皇室の葬儀の際に日本もそれにならって黒色に統一し、その後一般にも広まったのです」。

率先励行 葬儀会館の取組み

2024年3月28日
PR TIMES (株式会社セルモ)

高齢者や子どもたちの安心・安全な暮らしをサポート —熊本見守り応援隊—

冠婚葬祭の株式会社セルモ(熊本市)は2024年3月、「熊本見守り応援隊」協定を締結。関係機関と連携し、熊本県下の各地域で支援が必要と思われる世帯や高齢者、子どもたちが安全・安心して暮らせるよう、見守り活動に取り組みます。

熊本県では高齢化率が増加する一方、地域のつながりや家族間の希薄化により、支え合いの関係が著しく低下しています。また現代はプライバシー意識の高まりから、一人暮らしの高齢者や孤立した家庭で急病・事故により自宅で誰にも気づかれずに亡くなる、あるいは虐待されるなどの問題が生じています。地域から孤立したまま、生活困窮を相談できない方もおられます。

このような現状に対し、株式会社セルモでは、1968年の創業以来、結婚や葬儀サービスを熊本全域および九州南部で展

開。全グループの従業員数は約400人を数えます。なかでも営業活動においては県下一円にわたり各家庭を訪問していることから、今後は社内研修を通じて活動の趣旨を全社員に周知徹底。営業活動や清掃活動に伴う見守りの実施、また高齢者や子供、地域住民への挨拶や声かけなどを積極的に行います。

3月に行われた協定締結式には、株式会社セルモ岩上代表取締役社長が出席。熊本県、熊本県社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、熊本市民生委員児童委員協議会、熊本県警察本部との協定を締結しました。



海外展開本腰 ベトナムに飲食店出店 子会社上場にも意欲

メモリード(総合本部・長崎県)は本年度から、ベトナムへの飲食店出店を皮切りに海外展開を図る。さらに、5年以内をめどに子会社の株式上場を目指すほか、今年開園50周年を迎えるグラーバー園の夜間営業を充実させる。

吉田昌敬社長が5日、長崎市内で初開催した異業種交流会「長崎メモリード会」で言及。「現状維持は停滞を意味する。失敗を恐れずチャレンジしたい」と決意を述べた。

海外展開については「マーケットが伸びている東南アジアは近い。(同社の)国内事業が元気なうちに10年スパンで本腰を入れる」と強調。まずはベトナムに高級焼き肉店を出し、ホテルやレストランに拡大していくとした。

冠婚葬祭などで培った運営ノウハウを迅速に全国展開するため、このほ

ど東京・恵比寿に三つの子会社の事務所を開設。吉田氏は、県内に本社を置く上場企業が無い状況も踏まえ、3社いずれかの上場を目標に据えた。このうち「ガーデンテラスホテルズ」はホテル施設運営に特化。「フォレストテラスウェディングス」は

バンケット(宴会など)を担い、「Mシステムズ」は火葬だけで済ませる直葬をインターネットで受注している。

グラーバー園は2017年4月から、同社主体の共同事業体が指定管理者となり運営している。吉田氏は、長崎観光業界が収入を伸ばすには宿泊者数を増やす必要があるとして、「夜に行きたくなる仕掛けを(同園に)つくりたい」と市と連携し夜間集客に力を入れる考えを示した。

2024年4月9日 長崎新聞

終活川柳

鎌倉新書主催、第一回「終活川柳大賞」の入選作をご紹介。終活をポジティブにユーモラスに描いています。

「就活を頑張る孫に
負けられぬ」

(ガブリータ 東京都 47歳)
終活と就活、親世代と若い世代の対比と、それを見ているお子様世代。三世代の姿が、ほほえましく描かれていますね。言葉遊びから、明るい、仲良しなご家族の様子が伝わってきます。

「顔写真ベストショット
を保管する」

(福岡県 48歳)
写真写りつて本当に気に入りますよね。終活が広がる中、もしもの時にはお元気な姿を遺影にしたいと希望する方も大勢いらっしゃると思います。最高の瞬間を大切に保管する、そんな人生への向き合い方が素敵です。

株式会社鎌倉新書
コレカラ終活フェア運営事務局



●五月のご命日●

「故人様と同じ日に、
こんな方がお亡くなりになっています…」
そんな一言をきっかけに、
傷心の喪主様へ、さりげないいたわりのお声かけを。

一日 (水) 平成六年(一九九四年)

アイルトン・セナ (F1ドライバー)

「音速の貴公子」の異名で有名なF1ドライバー。八十年代から九十年代前半のF1を代表するドライバーの一人。

二日 (木) 友引 平成二十一年(二〇〇九年)

忌野 清志郎 (ミュージシャン)

RCサクセションを筆頭に、多くのバンドを率いソウル・ブルースを下地にしたロックサウンドを展開した。

三日 (金) 昭和三十六年(一九六一年)

柳 宗悦 (思想家・美学者)

生活に即した民芸品に注目して「用の美」を唱え民藝運動を起こした思想家。民藝の普及につとめ日本民藝館を創設した。

四日 (土) 昭和五十八年(一九八三年)

寺山 修司 (詩人・劇作家)

「下町の錬金術師」の異名をとり、詩人、歌人、劇作家、映画監督、小説家、俳優、写真家など幅広く活動した。

五日 (日) 明治三十三年(一九〇〇年)

イヴァン・アイヴァゾフスキー (画家)

おびただしい数の風景画を残したロシアの画家。その大半が海をモチーフにしており、海洋画家の代表的存在として知られる。

六日 (月) 平成十八年(二〇〇六年)

萱野 茂 (アイヌ文化研究者)

アイヌ文化、およびアイヌ語の保存・継承のために活動を続けた研究者。自らもアイヌ民族で、アイヌ初の国会議員としても活動した。

七日 (火) 文政八年(二八二五年)

アントニオ・サリエリ (作曲家)

ローマ皇帝・オーストリア皇帝に仕える宮廷楽長としてヨーロッパ楽壇の頂点にいた人物であり、ベートーヴェンらを育てた名教育家。

八日 (水) 明治三十六年(一九〇三年)

ポール・ゴーギャン (画家)

フランスのポスト印象派の最も重要かつ独創的な画家の一人。「黄色い家」でのゴッホと共同生活でも有名。

九日 (木) 文化二年(一八〇五年)

フリードリヒ・シラー (劇作家)

ゲーテと並ぶ古典主義を代表する劇作家、詩人。詩は非常に精緻でありかつ優美であるといわれ、「ドイツ詩の文本」とされている。

十日 (金) 嘉永二年(一八四九年)

葛飾 北斎 (浮世絵師)

『富嶽三十六景』や『北斎漫画』等で知られる浮世絵師。後にゴッホなどの印象派の芸術家や工芸家、音楽家にも影響を与えた。

十一日 (土) 平成二十一年(二〇〇九年)

三木 たかし (作曲家)

石川さゆりの『津軽海峡・冬景色』や『それいけ!アンパンマン』のオーブニングテーマの作曲家として有名。

十二日 (日) 友引 平成二十八年(二〇一六年)

蜷川 幸雄 (演出家・映画監督)

日本を代表する演出家。海外でも評価が高く、「世界のニナガワ」と呼ばれた。2010年には文化勲章を受章した。

十三日 (月) 昭和五年(一九三〇年)

田山 花袋 (小説家)

『蒲団』や『田舎教師』などの作品で知られる島崎藤村と並ぶ自然主義派の代表的な作家。

十四日 (火) 明治十一年(一八七八年)

大久保 利道 (武士・政治家)

明治維新の元勳であり、西郷隆盛、木戸孝允と並んで「維新の三傑」と称される。維新後も政府の中樞として日本の近代化に貢献した。

十五日 (水) 平成元年(一九八九年)

井深 八重 (看護婦)

ハンセン病患者の看護に、生涯を尽くした看護婦。その活動は国際的に高く評価され、ナイチンゲール記章を受賞した。

十六日 (木) 平成二十三年(二〇一一年)

児玉清 (俳優・司会者)

多くの映画やテレビドラマに出演したほか、クイズ番組「アタック25」の司会を三十六年にわたり務め、人気を博した。

十七日 (金) 文化十五年(二八二八年)

伊能忠敬 (測量家)

十七年をかけて全国を測量し『大日本沿海輿地全図』を完成させ、日本史上はじめて国土の正確な姿を明らかにした。

十八日 (土) 文引 文化五年(二八〇八年)

エライジャ・クレイグ (牧師)

バーボン・ウイスキーを最初に製造したと伝えられており、「バーボンの父」として知られている。

十九日 (日) 昭和十年(一九三五年)

トーマス・E・ロレンス (軍人・考古学者)

オスマン帝国に対するアラブ人の反乱を支援した人物で、映画『アラビアのロレンス』の主人公のモデルとして知られる。

二十日 (月) 昭和五十一年(一九七六年)

荻原井泉水 (俳人)

新傾向俳句機関誌「層雲」を主宰。無定型自由律俳句を唱えて俳壇に大きな影響を与えた。門下には種田山頭火や尾崎放哉らがいた。

二十一日 (火) 昭和三年(一九二八年)

野口英世 (細菌学者)

細菌学の研究に主に従事。黄熱病や梅毒等の研究で知られ、数々の論文を発表した。

二十二日 (水) 明治三十七年(一九〇四年)

上野彦馬 (写真家)

幕末期から明治時代にかけて活動した日本における最初の写真家で、日本最初の戦場カメラマン。

二十三日 (木) 平成十九年(二〇〇七年)

熊井啓 (映画監督)

多くの作品が「キネマ旬報」ベスト・テンに選出され、ベルリン国際映画祭等の各賞を受賞した、日本を代表する社会派映画の巨匠。

二十四日 (金) 文引 昭和四十六年(一九七一年)

平塚らいてう (思想家・作家)

大正から昭和にかけて「婦人参政権」の獲得に奔走したことで知られる女性解放運動・婦人運動の指導者。

二十五日 (土) 昭和九年(一九三四年)

グスターヴ・ホルスト (作曲家)

イギリスを代表する作曲家の一人。管弦楽のために書かれた『惑星』が有名であるが、一般的に合唱のための曲を多く遺している。

二十六日 (日) 明治十年(二八七七年)

木戸孝允 (武士・政治家)

幕末期に桂小五郎として知られていた尊王攘夷派の中心人物で「維新の三傑」の一人。明治天皇からの信頼も厚かった。

二十七日 (月) 平成四年(一九九二年)

長谷川町子 (漫画家)

日本初の女性プロ漫画家として知られる。代表作に『サザエさん』、『いじわるばあさん』等。

二十八日 (火) 平成四年(一九九二年)

藤村富美男 (プロ野球選手)

タイガースの黎明期を支えた、プロ野球創成期を代表する伝説の強打者。初代「ミスタータイガース」。

二十九日 (水) 昭和十七年(一九四二年)

与謝野晶子 (歌人・思想家)

情熱的な作品が多いと評される歌集『みだれ髪』や日露戦争の時に歌った『君死にたまふことなかれ』が有名な歌人。

三十日 (木) 文引 昭和九年(一九三四年)

東郷平八郎 (軍人)

日本海軍の司令官として日清及び日露戦争の勝利に大きく貢献し、日本の国際的地位を「五大国」の一員とするまでに引き上げた。

三十一日 (金) 応永十五年(一四〇八年)

足利義満 (室町幕府第三代将軍)

南北朝の合一を果たし、幕府権力を確立。金閣寺を建立して北山文化を開花させるなど室町時代の政治、経済、文化の最盛期を築いた。



正座を「正しい座り方」にした徳川幕府の知恵

2/2

畳や座布団が座り方の作法を育てた

正座の普及に欠かせなかったのが畳の文化。板床よりも柔らかく、冷たくもないため、床座に向いていたのだ。当初は公家や武家の屋敷で使われていたが、江戸中期には町人にまで広まっていく。中綿入りの柔らかい座布団が登場したのも、同じく江戸時代あたりからだ。畳の上に座布団を敷けば、正座の苦痛はかなり和らぐ。

座りに変えよう。和室での会食などに呼ばれたときは、「座布団の三大NG」に気を付けたい。まず、せつかく用意してく

れたふかふかの座布団を踏みつけることは厳禁だ。次に、相手が座ってほしい位置に置いているので、断りなく動かして座らないこと。そして、謝罪や頼み事をするときなどのあらたまった礼は、座布団を外して低い位置で行うのが礼儀。このように、座る行為一つで敬意を表すのは実にユニークな文化で、礼儀を重んじる芸道や武道の世界では、正座の伝統が受け継がれている。かるたやプロの囲碁・将棋でも対局時に正座をするが、あぐらよりも前傾しやすい利点もあるからだ。

座りに変えよう。和室での会食などに呼ばれたときは「座布団の三大NG」に気を付けたい。まずは、せつかく用意してく

危座を正座と呼ぶよう

nippoon.comHPより

自動搬送式納骨堂の「スゴさ」

おさい銭の電子マネーやA-1僧侶の出現などお墓のハイテク化はどこまで進んでいるのか？

ニチリョク(東京都)が販売代行している「自動搬送式納骨堂」は、礼拝室でICカードをかざすと、遺骨の入った箱(厨子)が礼拝口に自動的に運ばれてくる。これなら草むしりなどの管理もいらず、コインロッカー型の納骨堂、あるいは遠隔地からのバーチャル参拝のような味気なさも薄れる。

「厨子がセットされる礼拝口は、従来のお墓のように見えるデザインのため、今まで屋外のお墓を守ってきた方でも違和感なくお墓に手を合わせてお参りができます」(ニチリョク担当者)

それどころか、生前の故人の思い出動画をテレビモニターで見ながら参拝する時代。赤坂一ツ木陵苑では、礼拝口全てにデジタルサービス「家系

樹」を搭載。故人やその家族の家系図、画像・動画・テキストを登録できる「タイムメッセージ」機能もある。死から10年、「実はお父さんは…」といった仰天告白があるかも。「お墓参りを、ここに眠る故人さまやご先祖さまについて語り合い、思いを馳せ、過去と現在をつなげるものになります」(前出の担当者)



2024年3月28日 日刊ゲンダイデジタル

ほっこりお墓タイム

お葬儀面白エピソード

⑱ 母の葬儀での話。最後のお別れ、顔の横に親族がひとりひとり花を一輪添える。セレモニーがありました。私は5番目くらいだったのですが、自分の前の親戚達が皆、花を添えた後にどうも変な顔をしている。首をかしげる人もいれば、明らかに笑いをこらえている人もいる。なんだらう？と思いつつ私の番が回ってきました。覗き込んだ瞬間、啞然！なんと母親の顔の横にあったのは一本のキュウリ、思わず吹き出しました。どうやら父親が今朝、母が大切に育てていた菜園のキュウリを持ってきたようです。

⑳ 火葬場で幼い頃、焼かれたおじいちゃんの骨を部位ごとに周りに説明しながら骨壺に収めていく人に向かって「それ、組み立てるの？」と聞いた幼児がいまいた。5歳の時の私です。



新ご供養アイテム & 仏具 あれこれ…



火を使わない電気線香・ローソク

株式会社はせがわ(福岡・東京)は、電気線香・ローソク『ほのゆら』を販売開始いたしました。

昨今のニュースで、お線香やローソクによる火事を心配されている方が多くいらっしゃいます。特に小さいお子様やご年配の方がいるご家庭では、火を使う事自体に不安をお持ちの事でしょう。『ほのゆら』は、火の消し忘れや転倒による火事の心配が無く、煙や臭いも無いため、介護施設などでも安心してご使用いただけます。本物のお線香やローソクのように光が揺らぎ、明るさの調節も可能です。



2024年3月1日
PR TIMES
(株式会社はせがわ)

ささやかな祈りに寄り添う陶像「ほほ笑む仏たち」

長く磁器制作に携わってきましたが今回、磁器に上絵を施す技法に取組みました。上絵付けの技法は以前から馴染みのあるものでしたが、小さな仏像の曲面に絵付けするのは難しく、絵の具の厚さや塗り方で表情も変わります。今でもどんな色合いに焼き上がっているのかドキドキしながら窯を開けております。私の作る像は、日々の暮らしに寄り添いささやかな祈りやつづやきの対象となってくれることを願って制作しております。



2024年3月18日
PR TIMES
(松本慶一郎「ほほ笑む仏たち」展)

どの角度からも写真が見やすい無反射肖像額縁

ハクバ写真産業株式会社(東京都)は、肖像写真用フォトフレーム「入山」シリーズに、どの角度からも写真が見やすい無反射仕様のPET板を前面板に採用した太子判サイズ1製品を追加発売いたします。

太子判サイズの肖像写真を飾る専用フォトフレーム。落ち着いた深い色合いと重厚感のある仕上げで大切な写真を引き立てます。葬儀用リボンをかけても写真が見えやすいように、マットの上部が幅広になっています。

肖像写真が引き立つフレーム

太子判サイズの肖像写真を飾る専用フォトフレーム。落ち着いた深い色合いと重厚感のある仕上げで大切な写真を引き立てます。葬儀用リボンをかけても写真が見えやすいように、マットの上部が幅広になっています。

い色合いと重厚感のある仕上げで大切な写真を引き立てます。

無反射PET板

前面板は反射(映り込み)を防いでどの角度からも写真が見やすい無反射仕様。PET素材なので軽くて割れにくく、ガラスと違い、万が一落とした場合にも安心です。

葬儀用リボンをかけやすいマット仕様

葬儀用リボンをかけても写真が見えやすいように、マットの上部が幅広になっています。葬儀用リボンが付属していません。



2024年2月15日
PR TIMES
(ハクバ写真産業株式会社)

新刊！ 葬儀関連書籍

新刊の売れ筋ランキングから葬儀関連書籍2冊をご紹介します。



【お葬式の言葉と風習 柳田國男『葬送習俗語彙』の絵解き事典】

著者/高橋 繁行
出版/創元社

本書は柳田國男の『葬送習俗語彙』(昭和12年刊)に出てくる言葉の中から約180を選び、著者が約30年行ってきた聞き取り調査を盛り込みながら切り絵とともに解説したものです。喪のはじまりから、死者と向き合う湯灌・納棺、野辺送りの葬列、土葬・火葬・風葬の作法、魂がふるさとに帰る忌中祓いの儀礼まで、伝統的な弔いの諸相を明らかにします。



【親を見送る喪のしごと 亡くなったあとにすること。元気なうちにできること。】

著者/横森 理香
出版/CCCメディアハウス

親を見送る世代の「大人女子」は、自分自身も気力体力が衰えはじめ、病気になる人も。親の死はただでさえ参ってしまうものなのに、そこへ畳みかけるようにくる様々な手続きはあまりにも膨大。葬儀、相続含む様々な手続き、法事、実家や遺品整理、墓問題まで経験者、専門家にもお話をうかがい、大人女子が体験してきた「喪のしごと」についてまとめました。

※掲載の記事内容は、出典元の情報をできる限りそのまま引用していますがスペースの都合上、一部内容を編集させていただいております。



5月(皐月・May)

<p>1日(1851年) 第1回万国博覧会が開幕 ロンドンで世界初の万国博覧会が開幕。ヴィクトリア女王が開会宣言をする。40カ国が参加。</p>	<p>2日(1952年) ジェット旅客機「コメット」就航 イギリスで世界初のジェット旅客機「コメット」が就航。初年度だけで3万人が搭乗する人気を博す。</p>	<p>3日(1947年) 「日本国憲法」施行 国民主権、基本的人権の尊重、象徴天皇制、戦争の放棄と戦力の不保持などが定められている。</p>	<p>4日(1936年) プロ野球初の本塁打 阪神タイガースの藤井勇が、日本プロ野球の公式戦で初めての本塁打を記録する。</p>
---	--	---	---

<p>5日(2012年) 原発の稼働基数がゼロに 北海道の泊原子力発電所の3号機が発電を停止。日本国内の原子力発電所の稼働基数がゼロに。</p>	<p>6日(2005年) セ・パ交流戦開幕 日本のプロ野球で初のセ・パ交流戦が開幕。初の優勝チームは千葉ロッテマリーンズ。</p>	<p>7日(1888年) 日本発の博士号が授与 植物学者の伊藤圭介、数学者の菊池大麓、物理学者の山川健次郎ら25人に授与される。</p>	<p>8日(1987年) 「サラダ記念日」が出版 俵万智の第1歌集で、280万部のベストセラーとなり、新しい現代短歌の先駆けとなる。</p>	<p>9日(1929年) 日本発のトーキー映画が公開 新宿の「武蔵野館」で日本初のトーキー映画が公開。アメリカの短編映画が上映される。</p>	<p>10日(1988年) 瀬戸大橋が開通 本州と四国を結ぶ橋「瀬戸大橋」が開通。道路と鉄道の併用橋としては世界最大。</p>
---	--	---	---	--	--

<p>11日(1970年) エベレストに日本人初登頂 登山家の植村直己が松浦輝夫と共にエベレスト登頂に成功。日本人初の登頂者となる。</p>	<p>12日(1964年) テレビ東京が開局 東京12チャンネル(現テレビ東京)が開局。当初は民放ながら広告を流さない放送局であった。</p>	<p>13日(1972年) 千日デパート火災発生 大阪の千日デパートで起きた火災で、死者は118名。日本のビル火災史上最悪の大惨事。</p>	<p>14日(2007年) 「国民投票法」が成立 日本国憲法改正の手続きを定める「国民投票法」が成立。2010年5月18日に施行された。</p>	<p>15日(1972年) 沖縄が日本に返還 沖縄の施政権がアメリカから日本に返還される。これにより人口95万人の「沖縄県」が発足。</p>	<p>16日(1689年) 松尾芭蕉が「奥の細道」の旅へ 松尾芭蕉が「奥の細道」の旅へ旅立った。それにちなんで「旅の日」と制定されている。</p>
---	--	---	---	---	--

<p>17日(1985年) 「男女雇用機会均等法」が成立 女性差別撤廃条約批准に向けて制定された「男女雇用機会均等法」が可決成立する。</p>	<p>18日(1964年) コインロッカー初登場 東京・新宿駅東口に新宿民衆ビル「新宿駅ビル」が完成。コインロッカーが初登場。</p>	<p>19日(1952年) 白井義男が世界チャンピオンに ボクシングの白井義男がダト・マリノに判定勝ち。日本初の世界フライ級チャンピオンに。</p>	<p>20日(1941年) 東京湾が開港 東京湾が大型船が入港可能な外国貿易港として開港。都はこの日を「東京湾開港記念日」に。</p>	<p>21日(1934年) 渋谷駅前に忠犬ハチ公像建立 東京・渋谷駅前に忠犬ハチ公像が建立された。モデルとなったハチ公も除幕式に列席した。</p>	<p>22日(1884年) 「自由の女神」が完成 フランス・パリで「自由の女神像」が完成。翌年、像は214個に分解され米国・ニューヨークへ。</p>
--	--	---	--	--	---

<p>23日(1980年) 「影武者」がグランプリ受賞 第23回カンヌ国際映画祭で、黒沢明監督の「影武者」がグランプリを受賞。主演は中代達矢。</p>	<p>24日(1903年) 日本発のゴルフ場がオープン 「神戸ゴルフ倶楽部」がオープン。イギリス人貿易商A.H.グルームによって六甲山に造られる。</p>	<p>25日(1889年) 日本発の食堂車が登場 山陽鉄道の京都～三田尻(現・防府)間の急行列車に日本初の食堂車が登場。メニューは洋食のみ。</p>	<p>26日(2011年) 「世界の記憶」に日本で初登録 ユネスコの歴史的記録遺産をデジタル技術で保存する「世界の記憶」に山本作兵衛の作品が登録。</p>	<p>27日(1937年) サンフランシスコの金門橋完成 アメリカ西海岸のサンフランシスコの金門橋(ゴールデンゲート・ブリッジ)が完成する。</p>	<p>28日(1967年) ヨットで世界一周に成功 イギリスの海洋冒険家チェスターがヨットで世界一周し、イギリスのプリマス湾に戻る。</p>
--	--	---	--	---	---

<p>29日(1928年) 日本発の電気機関車誕生 鉄道省が民間と共同開発した日本初の国産電気自動車の試運転が横浜で行われる。</p>	<p>30日(1966年) 「巨人の星」が連載開始 「週刊少年マガジン」で「巨人の星」の連載が始まる。TVアニメ化もされスポ根ブームに。</p>	<p>31日(1891年) シベリア鉄道の起工式 ロシアのモスクワからシベリア地帯を横断してウラジオストクに至る世界最長の鉄道。</p>
--	---	---

